

資料 2第5期豊岡市障害福祉計画及び第1期豊岡市障害児福祉計画の策定に係る
グループインタビュー結果

グループインタビュー開催日程一覧

	障害種別	日 時	参加者数
1	肢体障害 内部障害	8月21日(月) 13:30~15:30	当事者:10人 委 員:4人
2	視覚障害	8月4日(金) 10:30~12:00	当事者:7人 支援者:4人 委 員:2人
3	聴覚障害	8月22日(火) 19:30~21:00	当事者:3人 支援者:3人 委 員:1人
4	知的障害	8月27日(日) 11:00~12:30	当事者:13人 支援者:4人 委 員:2人
5	発達障害	8月8日(火) 13:30~15:00	当事者:4人 家 族:2人 支援者:2人 委 員:3人
6	精神障害	8月25日(金) 14:00~15:30	当事者:8人 支援者:1人 委 員:6人
7	重症心身障害	9月4日(月) 11:00~12:30	家 族:10人 委 員:4人
8	障害児等	8月21日(月) 10:00~11:30	支援者:9人 委 員:3人
9	障害種別問わず	9月5日(火) 10:30~11:30	当事者:2人 支援者:2人 委 員:1人

肢体障害・内部障害

項 目	内 容
補装具	<p>○耐用年数になれば新しい補装具にしてほしい。</p> <p>○常に身につけている物なので、体に合ったものがほしい。</p>
医療費助成	<p>○身体障害者手帳3，4級では医療費の免除がないので、少しでも免除できるようにしてほしい。</p>
交通（駐車場）	<p>○身体障害者の移動は、基本的に車利用になり、どこに行っても駐車場が必要であるが、無料時間の設定が健常者と同じようになっている。車椅子の移動では全ての移動に時間が余分にかかるため、無料時間を延長するなど、配慮がほしい。神戸市ではそのような対応になっている。</p>
交通（交通機関）	<p>○JRの運賃は、片道の営業キロが100kmを超える場合50%割引になっているが、日常の生活圏内での移動には全く意味がないので、見直しをしてほしい。</p> <p>○就労移行支援で、定期券を利用することになる場合、全く割引がなく、少ない収入では非常に負担が大きい。</p>

視覚障害

項目	内容
交通・移動	<p>○タクシー券について、1回で複数枚使えるようにしてほしい。遠方への移動の場合に使いたい。20年間言い続けているが実現していない。</p> <p>○信号機で音が出る場所はよいが、ボタン式の信号機は改善してほしい。例えば、センサーなどでボタン信号機やボタンがあることを知らせてほしい。ボタンの場所を探すのも大変である。</p> <p>○信号もなく歩道もない箇所があり、また、観光シーズンには車も多く、視覚障害者は道路を渡ることができない。</p>
日常生活用具	<p>○視覚障害者がパソコンを使うのは便利でよいが、ソフトが5年で更新なので、古いものになっている。</p> <p>○ペンシル型の録音機器が他市では日常生活用具に認められているようであり、豊岡市でも認めてほしい。</p> <p>○日常生活用具は6年間であるが、4年で故障したときは自分で買い替えているが、その期間はどうにもならないのか。</p>
行政の対応	<p>○今回のグループインタビューの案内には、点字表記がなかった。これについては昨年も発言したが反映されていないのではないのか。</p> <p>○タクシー券に年度を点字で表示してほしい。</p> <p>○行政からの案内等では、封筒に発信元や内容（題名）を点字表記してほしい。</p>
制度の問題	<p>○65歳以上になったら介護保険が優先になるが、介護保険の認定調査の結果によって、これまで受けられていたサービスが受けられないことになり、この先もこの状態であれば不安である。</p>
支援	<p>○若い人に出てきてもらいたい。市役所や社会福祉協議会からそういう人を訪問して、外に出てもらうように言えないものか。</p> <p>○外に出てきていない人は、補装具などについても知らないのではないのか。外に出て、今日のような会議参加すればそういうこともわかるのではないのか。</p>
福祉サービスの認知	<p>○65歳以上の障害福祉サービスと介護保険によるサービスとの関係等について理解されていない。</p>

聴覚障害

項 目	内 容
制度等	<p>○手話通訳者派遣制度の通訳者の派遣要綱を改正してほしい。冠婚葬祭への通訳者派遣に直系親族の一親等のみという制限がある。社会参加という意味で幅広く利用できる制度にしてほしい。</p> <p>○緊急時や夜間の急病の場合、通訳者を派遣してもらえない。命に関わることであり、通訳なしではコミュニケーションできないので、24時間対応で派遣できるようにしてほしい。日中でも緊急で対応してもらえる場合もあるが、できないことが多い。</p> <p>○通訳者はたくさん派遣してほしいが、すぐに養成できないため奉仕員の養成講座受講となるが、受講者が高齢化しなかなか通訳者まで進めない。そのため、教育の場などで手話に触れてほしい、障害者の理解を進めてほしいということで、そのためにも手話言語条例の制定が必要である。</p>
手話通訳者の配置	<p>○公的施設の窓口または、その部署に手話通訳者を設置してほしい。</p> <p>○手話は言語であり、公的施設では誰でも手話でコミュニケーションできるようにならないか。また、そのためには、学校教育での取り組みが必要ではないか。</p>
コミュニケーション	<p>○仕事の場では本来、手話であるが、ほとんどの場合筆談であり、同僚とは簡単なことを身振りでもコミュニケーションがとれるものの、手話でのコミュニケーションをしたい。</p>
聴覚障害者への対応	<p>○障害者に講演を依頼した講演会などでは、講師として声がかかるのは車椅子の方や視覚障害者で、聴覚障害者が呼ばれることはない。それは、聴覚障害者が行く場合は通訳者も必ず必要となり、費用もかかるためである。このようなことが、聴覚障害者への理解が進まない要因ではないか。また、呼ばれていく場合でも、無料のボランティアだと思われていることが多い。</p>
聴覚障害者へのサポート	<p>○聴覚障害者へのサポートとして、手話通訳、要約筆記など選択肢が多い方がよい。</p> <p>○手話通訳者の補助的存在として奉仕員があり、養成講座も行われているが、通訳者の養成講座とのレベルの差はかなり大きい。</p>

知的障害

項 目	内 容
就労	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事をすることは楽しい。 ○給料は、少しずつあがるが、もっと給料を上げてもらいたい。 ○就労継続支援B型から就労継続支援A型に変わり、仕事はハードになったが、長い時間働けることが、よい経験となっている。 ○相談相手は、施設の課長や職員だが、近所の人なので話やすい。
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ○移動支援は、利用時間に制約があり、なかなか使えない。 ○福祉サービスは利用したいが、どのようなサービスが適しているのか、利用できるのかわからない。
地域でのくらし	<ul style="list-style-type: none"> ○触れ合うことがなかった人たちと、交流できるようになるためには、仕事をする事で分かり合うことも、一つの方法である。 ○障害者をのけものとするのではなく、暮らしやすいまちづくりをしてほしい。 ○地域に様々な行事があるが、それに参加してもらいたい。そうしないと接点ができない。 ○障害や障害者を知ってもらうべきである。知ってもらうために何ができるのかを考えていく必要がある。知ってもらうことが、コミュニティを作るうえで大切となる。 ○自立するにあたっては、地域の人が暮らしにどう向き合ってくれるかが課題となる。 ○グループホームができるということ、地域の住民が、不安を持つことがあるので、地域の人に理解をしてもらいたい。

発達障害

項目	内容
手続等	○障害福祉サービス等の手続きがよくわからない。
過ごし方	○長期休暇の過ごし方について悩んでいる。
将来のこと	○これまで福祉サービスを利用していなかったのに、今後、就労や他のサービスを受ける場合、本当に受けられるのか心配である。
就労	<p>○規則正しい生活や挨拶などできていると思っているが、就労してみると会社との関係が難しく辞めてしまったので、どのような就労が合っているかわからない。</p> <p>○18歳で就労となり作業所を進められるが、仕事をするまでに訓練ができる場所や就労の準備期間がほしい。その数年間が重要だと思っている。</p> <p>○就労継続支援A型で仕事をしているが、少しでも仕事ができるようになるとう一般就労に行かされるのではないかと不安が常にある。健常者と同じように仕事ができると思われてしまうのが怖い。</p> <p>○就労継続支援A型で仕事を始めたが、会社自体の障害者雇用に対する考え、会社内の障害者の就労に対する連携の悪さ、現場指導者からの無理な注文などで、短期間で仕事を辞めた。学校、職場、ハローワークと関係者間での相談の場もあったが、継続は難しかった。</p> <p>○発達障害者の就労では、仕事内容のもう少し丁寧な説明書やマニュアル等があれば、継続できるのではないか。</p> <p>○障害者就労を受け入れる企業等が非常に少ない。また、それらに行ってもほとんどが門前払いである。</p> <p>○ハローワークから発達障害と企業に伝わっているが、普通に大学を出ていた場合には、面接になると見た目で見られて、健常者と同じように仕事ができると思われてしまう。</p> <p>○発達障害では、こだわりが強い、やり方を柔軟に変えられないなど特徴があって、普通の人には当たり前でできることができないことを理解してもらえない。</p>
療育	○療育は子ども対象であるが、発達障害とわかったのがある程度、大きくなってからの場合、そのような人にも療育の機会がほしい。療育を受けていないので、生活の基本的なことなどがわかっていない。

精神障害

項目	内容
生活の満足度	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者の多くが概ね（8割程度）、日常の生活には満足している。 ○工賃だけでは、自分の日常のことにも賄えない。 ○お金の管理が苦手で、常に悩んでいる。
就労継続	<ul style="list-style-type: none"> ○就労継続支援AまたはBで就労しているが、肉体労働なので疲れ、注意をされて落ち込むことがある。また、体力が続かなく辞めてしまうことになる。 ○グループ就労で、4人一緒に仕事に入ったが、自分以外に3人いることで、仕事に励みになるとともに、悩みも共有できるなど、就労への良い方法だと思っている。 ○体調に合った仕事、障害への理解があればと思う。 ○車がないことで移動に制約があり、マイカー通勤できないので就職に制約がある。 ○障害を最初に了解してもらって、仕事をしているが、仕事の手が遅いことや聞こえにくいことから、仕事ができない場合、厳しく注意されてしまう。
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ○地域移行については、体調も良くなり、人と話をするといろんなふれあいできて心も和み満足している。
施設	<ul style="list-style-type: none"> ○精神障害者だけのグループホームがあればよい。
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ○地域でも暮らしていける環境づくりが必要である。
情報提供・周知	<ul style="list-style-type: none"> ○精神障害に対する正しい理解をしてもらうように、広報などをしっかり出してほしい。精神障害者による事件がマスコミで取り上げられると、特別視されてしまう。居住している近隣では、自分が精神障害者であることは、みんなが知ってくれている。

重症心身障害

項目	内容
暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ○24時間体制で子どもをみないといけないので、精神的に病んでしまう。子どもを預ける場所も大変だが、親の居場所も必要である。 ○自分が面倒を見られなくなったときに不安。 ○施設に受け入れてもらえなくて、家で見ているが、症状が酷いときなどは家の外にも漏れて虐待を疑われる。
就労	<ul style="list-style-type: none"> ○雇用者側に、障害のことをはっきり言えば、落とされる。受け入れ体制が狭すぎる。
福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> ○おむつの支給とかサービスがあるが、知らなくて、たまたま口コミで知った。
施設	<ul style="list-style-type: none"> ○短期入所（ショートステイ）の施設がないことで、児童も大人も困っている。加西や姫路に行くのに本人も移動が負担である。 ○看護師不足もあると思うが、医療的ケアの必要な子どもを預かっている施設がない。 ○卒業後の居場所が、重症心身障害者の人にはない。住み慣れたところで生活したい。 ○老人ホームがいろいろできるのに、重症心身障害者の施設がないのがすごく不思議である。
相談	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に話を聞いてもらう機会が欲しい。
情報提供・周知	<ul style="list-style-type: none"> ○生まれてからすぐに障害がわかったが、どこに相談すればよいか尋ねたがどこも紹介してもらえなかった。生まれてすぐに情報が欲しい。

障害児等

項 目	内 容
療育	○グループ療育が小学2年までなので、これからというところで終わるため困っている。
福祉サービス	○放課後等デイサービスを利用したいと思ったが、親の仕事との関係で利用できない。ニーズに合っていないのではないかと。時間を延長してほしい。
施設	○5歳児検診で発達障害が見つかることで対象者が増えているが、障害児が利用できる施設が増えていないことが問題。
相談支援	<p>○小学校に行く前であるが、就学後の放課後をどう過ごすか考えているが、それをどこで相談すればよいかわからない。相談先が少ない。</p> <p>○相談支援事業所では、子どもの様子を話しても聞き入れてもらえないので、利用しにくいと思った。</p> <p>○こちらがこういうサービスを利用したいと言えば、何らかの情報が出てくるが、相談支援事業所からは教えてくれない。</p> <p>○就学についてどうしますかと聞かれるが、専門家の意見として客観的にどうすれば良いかを教えてほしい。</p> <p>○障害が比較的軽度な場合、学校や相談支援事業所に相談しても他の子どもと比較して問題ないと決めつけられてしまう。</p>
情報提供・周知	<p>○障害福祉サービスの内容などの情報がどこに行けばもらえるのかわからない。</p> <p>○障害福祉サービスにどのようなものがあるのかわかっていないが、それをどうすれば知ることができるのかわからない。</p>

障害種別問わず（特別支援学校の生徒）

項 目	内 容
卒業後	○高校3年生で、卒業後は働く予定をしている。実習も終わっている。
過ごし方	○学校が終われば、自宅で過ごしている。
暮らし	<p>○学校であった悪いようなことは家では話さない。困ったときは自分で解決する</p> <p>○日曜日は買い物に行ったり、家でパソコンをしたりしている。友達と出かけることはない。</p>
就労	<p>○障害の程度に見合って就労してもらいたいけど選択肢が少ない。都会であればいろいろあると思うが、企業も業種が限られてしまう。ただ、7、8年前に比べれば、環境はかなり改善していると思う。</p> <p>○発達障害児は、見た目ではわからないので、1回目にできて2回目にできないとなぜできないと言われる。就労の現場で理解されないことがある。</p> <p>○就職の場合は、本人より保護者に発想の転換をしてもらわないといけない。子どもは平然と仕事に行っているが、些細なことで保護者が慌ててしまう。</p> <p>○卒業後も就労でトラブルがあった場合は、学校の先生に聞いている。</p> <p>○企業では人事で人がよく異動するので引継ぎされていないことが多く困る。</p>